

その霊の導き、働き、語りかけにしたがってあらゆることを行ない、主の唯一の行動のために  
彼をからだのかしらとして尊び、からだによって均衡がとられてからだの唯一の一の中に保たれる (詩606)

|  |  |
|--|--|
| <p>I. 私たちが行なうあらゆることは、その霊の導き、働き、語りかけにしたがって行なわれる最上の事がその霊と何の関係もないなら、宗教となってしまいます：<br/>Iコリント 12:13 なぜなら、私たちはユダヤ人もギリシヤ人も、奴婢も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。</p> | <p>A. 使徒行伝の開始において、百二十人は何も形成せず、何も始めず、何も開始せず、何も行なおうとしませんでした。むしろ、彼らは十日間、何度も祈りました。彼らの祈りは完全にその霊の中にありました。<br/>使徒 1:14 これらの人はみな、婦人たち、イエスの母マリヤ、イエスの兄弟たちと共に、一つ心でひたすら祈り続けていた。</p> <p>B. それから驚いたことに、その霊が彼らの上に注ぎ出され、彼らは完全にその霊の中にいる人々となりました。その時から、彼らが行なった事は何であれ、言った事は何であれ、行った所はどこであれ、完全にその霊の中にある事柄となりました：</p> <p>1. ペテロはペンテコステの日に、十一人と共に立って語りました。彼はその霊なしに語りませんでした。むしろ、ペテロはその霊で満たされていました。<br/>使徒 2:1 さて、ペンテコステの日が満ちた時、彼らはみな同じ場所に集まっていた。4 すると、彼らはみな聖霊で満たされ、</p> <p>2. ペテロは、使徒第 4 章において宗教の指導者に語ったとき、再び聖霊で満たされました。</p> <p>3. ステパノも、聖霊で満たされた人でした。だれもステパノが語った知恵とその霊に対抗することができませんでした。ステパノは、その霊の中で生き、語り、供給する人でした。</p> <p>4. ピリポは、その霊の中で福音を宣べ伝えました。彼がどのように宣べ伝えることを決意したのでも、決定したのでもありません。彼はただその霊の中で生き、また歩いていたのです：</p> <p>a. こういうわけで、その霊が、馬車に乗っているエチオピア人と一緒になるようにピリポに告げたととき、ピリポは彼に走り寄りました。</p> <p>b. ピリポは、宦官に福音を宣べ伝えて彼をバプテスマした後、立ち去ろうとしませんでした。しかしながら、その霊が、「ピリポをさらって行きました。</p> <p>c. 伝道者ピリポがどこへ行くかは、彼の決定にかかっています。そうではなく、それは、その霊の導きにかかっています。その霊が、ピリポを導いて宦官に福音を宣べ伝えさせました。ピリポが宦官に福音を伝えた後、ピリポをさらって行ったのはその霊でした。</p>   |
| <p>II. 私たちは、運動の中にいるのではなく、聖霊の生ける行動の中にいます：</p>   | <p>A. 私たちがみな、特に若者たちが、印象づけられなければならないのは、その霊の中には運動のようなものが何もないということです。その霊が率先しなければならず、その霊が働きを行なわなければならない、その霊が語らなければならない、さらにはその霊が私たちの生活とさえならなければならない：</p> <p>1. 私たち召会の中にいる人々は、完全にその霊で浸透された人々でなければならず、また完全にその霊と一である人々でなければなりません。もしそうであれば、私たちが言う事は何であれその霊の語りかけであり、私たちが行なうことは何であれその霊の行なうことであり、私たちの働きは何であれその霊の働きです。</p> <p>2. 私たちは使徒行伝において、どのような種類の運動も見ません。そうではなく、私たちはその霊の導き、働き、語りかけを見ます。</p> <p>3. 使徒行伝において起こったあらゆる事は、生ける霊にしたがって起っていました。人の決定にしたがって起こったことは何もありませんでした。</p> <p>B. 預言者たちと教える者たちは使徒第 13 章において、会議を招集して問題について討論したり、決定したりしたではありません。そうではなく、彼らが主に仕え、断食していた時、聖霊は言いました、「さあ、バルナバとサウロを私のために選び分け、私が彼らを召した働きに当たらせなさい」：<br/>使徒 13:1 さて、アンテオケの地に在る召会には、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの、預言者たちと教える者たちがいた。2 彼らが主に仕え、断食していた時、聖霊が言われた、「さあ、バルナバとサウロを私のために選び分け、私が彼らを召した働きに当たらせなさい」。3 そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いてから送り出した。4 二人は聖霊によって遣わされ、セルキヤに下って行き、そこから船でクプロに渡った。</p> <p>1. このことは完全に、その霊による、その霊の中の、その霊と共にある行動であり、それは地上におけるキリストのからだの忠信で追い求める肢体たちと、天のかしらとの組み合わせを通してでした。</p> <p>2. このゆえに、このことは、人の案配を伴う宗教的な運動ではありませんでした。それは、仕え断食することを通してからだのかしらに機会を与えた、キリストのからだの一群れの肢体によって開始されました。彼はその霊として、彼らのうちの二人を選び分け、彼の偉大な使命を遂行させて、彼の王国を拡大させ、福音を宣べ伝えることを通して異邦人世界において彼の召会を設立させました。</p> <p>C. 使徒行伝には全く運動がありません。イエスという生けるパースンの生ける行動があるだけであり、この生けるパースンは聖霊です：</p> <p>1. バルナバとサウロ(パウロ)が、魔術を行なう者、偽預言者と出会ったとき、パウロは聖霊で満たされて、彼に語り始めた、聖書は私たちに告げています。使徒 13:9 しかしサウロ、またの名をパウロは、聖霊で満たされ、彼をじっと見つめて 10 言った、「ああ、あらゆる欺きと、あらゆる凶悪に満ちている悪魔の子、すべての義の敵よ、おまえは主の真つぐな道を曲げることをやめないのか？」</p> <p>2. 使徒第 13 章 2 節は、バルナバをサウロよりも先に述べています。しかしながら、率先して語ったのはパウロでした。バルナバとパウロは会議を開いたのではなく、バルナバが会議の中で、「今後、あなたが語り手となり、私が助手となりましょう」と言ったのでもありませんでした。</p> <p>3. 人の討論や決定はありませんでした。そうではなく、生けるパースン、聖霊の行動がありました。その霊で満たされた人が語りました。</p> <p>D. 使徒行伝において唯一会議が開かれたのは、第 15 章においてでした。使徒たちと長老たちは共に集まって、ある事柄を顧みしました。28 節は言います、「聖霊と私たちには…良いと思われた」：使徒 15:28 なぜなら、聖霊と私たちには、次の必要事項のほか、いかなる重荷もあなたがたに負わせないのが良いと思われたからです。</p> <p>1. その会議には議長はいませんでした。議長を務めた方は聖霊でした。彼は霊なるキリスト、召会のかしら、万民の主です。</p> <p>2. パウロ、バルナバ、他のある人たちがエルサレムに行ったのは、エルサレムが、割礼に関する異端の教えが出て来た源であったからです。神の新約エコノミーによれば、地上における神の行動には本部もありませんし、他の諸召会を管理する本部の召会もありません。</p> <p>3. 神の新約エコノミーにおける神の行動の本部は、天にあります。すべての諸召会を支配する方は、召会のかしらであるキリストです。</p> |
| <p>III. 私たちは、主の唯一の行動のために彼をからだのかしらとして尊ばなければならない：</p>  | <p>A. 私たちは、使徒行伝から、また使徒第 15 章の使徒たちと長老たちの経験から、決して自分たちで決定しないことを学ばなければならない。さらに、私たちは、他の人に提案したり、指示したりすべきではありません。私たちのうちのだれもこの事を行なう資格はありません。</p> <p>B. 私たちは主でもなく、主人でもなく、収穫物の主でもありません。主イエスだけが収穫物の主です。彼は主人であり、からだのかしらです。私たちは自分たちで決定しないことによって彼を尊ばなければならない。ルカ 10:2 そして彼らに言われた、「収穫物が多いが、働き人は少ない。だから、収穫物の主が、彼の収穫物のために働き人をせき立てて送り出してください、彼に祈り求めなさい。行きなさい。見よ、私があなたがたを遣わす…ヨハネ 4:35 あなたがたは、収穫が来るまでまだ四か月もある、と言っているではないか？見よ、私はあなたがたに告げる。目を上げて畑を見なさい。それはすでに色づいて、刈り入れを待っている。</p> <p>C. 私たちは何度も、他の人に代わって決定をし、彼らに指示してきましたが、このように行なうのではなく、私たちは祈り、断食し、主を待ち望まなければならない。</p> <p>D. 私たちは、次のように彼に言うべきです、「主よ、あなたは私の主人であり、からだのかしらです。私は決定したり、他の人に命令したりする資格はありませんし、そのような地位も権威もありません。主よ、私は、あなたを待ち望んでいます。私は、あなたのみこころを知りたいのです。主よ、私は、あなたが私が行なってもらいたいこと、また私の同労者に行なってもらいたいことを知りたいのです。主よ、私はあなたが諸召会に行なってもらいたいことを尋ねます」。</p> <p>E. 私たちはみなこのような態度を持たなければならない。そうでないと、私たちは主を侮辱することになり、ついには彼に見捨てられてしまうでしょう。頭首権はキリストだけに定められています。彼だけが頭首権を持っており、彼だけが唯一の導き手です。エペソ 1:10 時代の満了時のエコノミー [経綸] へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとしたのです。コロサイ 2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって満ち満たされているのです。彼はすべての支配と権威のかしらです。</p> <p>F. 伝統的なキリスト教は、主の臨在を失ってしまいました。なぜなら、キリスト教の多くの人たちは自分自身を収穫物の主、働きの主人としてしまったからです。私たちは、この悲劇を繰り返してはなりません。</p>  |

|   |   |
|---|---|
| <p>G. 主は、私たちに負担を与えて出て行かせて、人の住む全地に王国の福音を宣べ伝えさせますが、私たちはこれを運動へと変えてはなりません：<br/>マタイ 24:14 そしてこの王国の福音は、すべての民に対する証しのために、人の住む全地に宣べ伝えられる。それから終わりが来る。</p> | <p>1. 私たちが、自分自身で他の人に代わって下すような決定も、その霊に対する侮辱です。もし私たちがこのことを行なってしまったなら、悔い改めなければなりません。また必要であるなら、私たちは他の人に赦しを請わなければなりません。なぜなら、私たちは、彼らが何を行なうべきかについて指示してしまったからです。</p>  |
|   | <p>2. 私たちのうちのだれも決して、他の人にどこに行くべきかを告げるべきではありません。これは主にとって何という侮辱でしょう！</p>   |
|   | <p>3. もし私たちがこうするなら、他の人は祈る必要がなくなってしまう、ただ私たちの言葉に基づいて行動するでしょう。こうすることは、主の地位を強奪し、自分自身を主とすることです。これは主にとって最大の侮辱です。</p>  |
|   | <p>4. 私たちは、他の人が主と接触するように助ける必要があります。若い兄弟姉妹たち、あなたには祈る必要があります。ある人は感動して運動に加わっても、主との個人的な接触を全く持たないことがあります。</p>  |
|   | <p>5. 私たちは、主から負担が与えられて導かれ、大学キャンパスで働いているかもしれませんが、若者は再び、この事柄を主にもたらし、祈り、自分自身を主にささげて、次のように言わなければなりません、「主よ、私はあなたと共に前進したいのです。主よ、あなたは私にどこへ行ってほしいのでしょうか？」。</p>  |
|   | <p>6. あらゆる人は、主の導きについて明確になるまで、祈らなければなりません。あらゆる人は、主の臨在の中へともたらされて、彼と接触しなければなりません。</p>  |
|   | <p>7. 主は、大学キャンパスへと行動しており、多くの人を導いて出て行かせるかもしれませんが、彼の主権において、あなたが出て行くことを許さないかもしれません。このことは、私たちの間で起こっていることが運動ではなく、完全に主の導きの事柄であることの証明です。</p>   |
|   | <p>8. 私たちはみなしばらく、主の臨在の中へと行き、祈らなければなりません。私たちは、どのような運動の中にもいません。あらゆる事は、主の臨在の中へともたらされなければなりません。</p>   |
|   | <p>9. 私たちはみな、だれも他の人に代わって主に行くことができないという、この学課を学ばなければなりません。これは聖職者階級制度です。私たちの間にいる最近救われたばかりの人でさえ、やはりその人自身が主に行かなければなりません。</p>   |
|   | <p>10. 最終的に、私たちはみな次のように言うことができるべきです、「私がこの場所に行くのは、主に尋ねて、主がそこに行くよう私を導いたからです」。しかし、私たちは決して、ある兄弟が私を励ましてそうさせたという理由で、ある場所に行つてはなりません。</p>   |
|   | <p>11. 私たちは、だれかにどこへ行くべきかを決して告げてはなりません。そうではなく、私たちには、主が導いているという確信がなければなりません。そうでなければ、私たちは運動の中にいることになり、私たちが行なうことには何の霊的価値もなくなってしまふでしょう。私たちが主の導きに基づいて行動するときはいつでも、決してそれについて後悔しません。</p>   |
|   | <p>12. 神の新約エコノミーはその霊の事柄です：</p> <p>a. 使徒第 16 章 6 節は、パウロと彼と共にいた人たちが「アジアで御言を語ることを、聖霊に禁じられた」と言っています。彼らはビテニヤに入って行こうとしましたが、「イエスの霊が彼らを許さなかった」のです。使徒 16:6 また、彼らはアジアで御言を語ることを、聖霊に禁じられたので、フルギヤとガラテヤの地方を通って行った。彼らがムシヤに来た時、ビテニヤに入ろうとしたが、イエスの霊が彼らを許さなかった。</p> <p>b. 最終的に、その夜、一つのビジョンがパウロに現れ、一人のマケドニア人が立っていて、彼に懇願して言いました、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」。使徒 16:9 するとその夜、一つのビジョンがパウロに現れた。一人のマケドニア人が立っていて、彼に懇願し、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」と言った。</p> <p>c. 私たちは、このことによって、使徒が自分自身の決定にしたがってではなく、ただ主の導きにしたがって歩み、働いたことを見ます。もし私たちが自分自身の決定にしたがって働いたら、自分自身を高く上げて主としてしまいます。</p> <p>d. 主の回復の中のあらゆる人は直接、主に行き、祈らなければなりません。あなたが何を行なわなければならないかを他のだれかに尋ねてはなりません。私たちがだれも主ではありません。イエス・キリストだけが主であり、私たちはみな彼に次のように聞かなければなりません、「主よ、私はどこへ行くべきでしょうか？」。</p> <p>e. 単なるスローガンのように、「私は流れに従っています」と言わないでください。真の流れは、主ご自身です。運動をかき立てることは何と間違っていることでしょうか。それは主にとって侮辱です！</p> <p>f. 私たちは、主の回復の中で行なうどのような行動に関しても、直接主ご自身に行き、祈らなければなりません。私たちが、主が私たちを遣わしているという確信を持たなければなりません。私たちがだれも、他の人に指示したり、他の人に代わって決定したりすべきではありません。</p> <p>g. 今や、私たちが主の御前で真の転機を持つ時です。私たちが次のように言わなければなりません、「主よ、私たちは、あなたに対して罪を犯したり、あなたを侮辱したりしたくありません。私たちが、あなたの導きを求めてあなたを待ち望むことによって、あなたを私たちのかしら、また私たちの主として尊びたいのです」。</p> <p>h. これが、主の回復であり、キリスト教のあわれな歴史の繰り返しではありません。だれからも命令を受けてはならず、だれにも命令してはなりません。主に行き、祈ってください。これが、正しい道です。</p> |
| <p>IV. 私たちはまた、主の行動のために、からだによって均衡がとられる必要があります：</p>   | <p>A. 導く人たちが、多くの祈りの後に、ある事柄について真に負担が与えられるとします。そのとき、彼らが行なうべきことは、交わりを通して、彼らの負担を聖徒たちに伝えて、聖徒たちに祈ってもらうように求めることです。</p>   |
|   | <p>B. 最終的に、聖徒たちは主からの個人的な導きを受けて、それに基づいて行動するかもしれません。このようにすれば、だれも個人主義的であったり、反逆的であったりすることはないでしょう。</p>   |
|   | <p>C. その霊とからだは、私たちが均衡の中に保ちます。私たちが、主から得た導きが、からだの感覚に一致するかどうかを確かめる必要があります。</p>   |
|   | <p>D. 導く人たちは次のように言うてよいでしょう、「聖徒たち、私たちが主から負担を受けて、あなたがたのうちのある人がある都市に移住する必要があるかもしれないことを、あなたがたに交わりたく感じています。私たちがあなたがたにこの事柄について徹底的に祈っていただきたいと思います」。</p>  |
|   | <p>E. 最終的に、ある人たちは、主によって負担を受けて導かれ、ある場所に出て行くかもしれません。他の人は負担を受けて、違う場所に行くかもしれません。</p>  |
|   | <p>F. 交わりが祈りの後に続きます。私たちが祈り終わった後、主の導きに関して明確になります。</p>  |
|   | <p>G. もし私たちが祈らず、他の人と交わらないなら、主を侮辱し、彼の地位を強奪します。さらに、もし私たちが祈らず、交わらないで、ある場所に移住するなら、テスト、患難、迫害がやって来たときに、揺り動かされるでしょう。</p>   |
|   | <p>H. もし私たちが祈り、交わるなら、主をからだのかしらとして尊び、また私たちを導いているのは主であるという確信を持つようになります。そして、私たちがある場所に移住した後、主が私たちをそこに遣わしたという確信を持ち、外側の状況がどうであっても、決して私たちの行動を後悔することはないでしょう。コロサイ 2:19 かしらに結び付いていないのです。この方から、からだ全体は、節と筋によって豊かに供給され、結合され、神の増し加わりによって成長するのです。</p>  |
|   | <p>I. 私たちは、そこにいるのが主のみこころであり、また主の導きであると強く確信しており、そこにおいて死ぬ覚悟ができていよう。私たちがそのような確信を持つだけでなく、増強されて主の権威が与えられます。</p>  |
| <p>V. 私たちは、諸召会の中で、ま聖徒たちと共に、二つの要素を、すなわち、その霊とからだを顧慮しなければなりません：エペソ 4:3 平和の結合するさずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努めなさい。4 一つからだ一つ霊、…</p>                          | <p>A. 私たちは次のように尋ねなければなりません、「このことはその霊でしょうか？」、「このことはからだのためでしょうか？このことは分裂を引き起こすでしょうか？」。</p>   |
|   | <p>B. 私たちは、自分が行なっている事がその霊の中にあることと、それがキリストのからだの唯一の一を顧慮していることを確信していなければなりません。</p>   |
|   | <p>C. その霊の中にあることと、からだの唯一の一の中にあることは、主の回復の中に保たれることです。</p>   |

## 経験:①その霊の導き、働き、語りかけにしたがってあらゆることを行なう

宗教とは、神と関係があり、神への奉仕と礼拝と関係があっても、その霊なる神と何の関係もないものです。神と関係がある特定の事柄はとても良いかもしれませんが、それがその霊と関係がない限り、それは宗教です。祈りの例証を挙げてみてください。あなたがその霊の中で祈らずに、主に祈るなら、あなたの祈りは…宗教のものです。…宗教的であるとは、その霊から離れて神のために何かを行なうことです。神のためになされた最上の事は、その霊と関係がないなら、宗教となります。

使徒行伝においてその霊と関連がある多くの節を考察しましょう。使徒行伝の開始において、百二十人は何も形成せず、何も始めず、何も開始せず、何も行なおうとしませんでした。むしろ、彼らは十日間、何度も祈りました。彼らの祈りは完全にその霊の中にありました。それから驚いたことに、その霊が彼らの上に注ぎ出され、彼らは完全にその霊の中にいる人々となりました。その時から、彼らが行なった事は何であれ、言った事は何であれ、行った所はどこであれ、完全にその霊の中にある事柄となりました。ペテロはペンテコステの日に、十一人と共に立って語りました。彼はその霊なしに語りませんでした。むしろ、ペテロはその霊で満たされていました。

### 中高生編:

クリスチャン生活と召会生活は完全にその霊の物語です。その霊に触れるために、あなたは自分の霊を活用しなければなりません。その霊はあなたの体によってではなく、またあなたの魂によってでもなく、あなたの霊の中に入り、あなたの霊と混ざり合います。したがって、あなたは必ず自分の霊を訓練することを学んでください。

1テモテ 4:7 しかし、俗悪で、老婆じみた作り話を拒絶し、自分自身を訓練して、敬虔へと至りなさい。<sup>8</sup> なぜなら、体の訓練には多少の益はありますが、敬虔はすべての事柄に益があって、現在の命の約束と、来たるべき命の約束を伴っているからです。

体の訓練には、肉体的な体の健康に益があります。しかし霊の訓練は肉体的にも、心理的にも、霊的にも益があり、人の三部分全体に有益です。さらに、現在の命の約束、つかの間の事柄に益があるだけでなく、将来の事柄、永遠の事柄に益があります。なぜなら敬虔の訓練、すなわち自分の霊を訓練することで、あなたは命を与える霊、すべてを含む霊、その霊に触れ、享受することができるからです。

その霊は勉学において、あなたに知恵と知識を供給し、またギスギスしがちな人間関係において、優れた潤滑油を供給することができます。自分の霊を活用し、その霊に触れることは、実際には神があなたの学生生活と共におられることです。

IIテモテ 4:22 主があなたの霊と共におられますように。恵みがあなたと共にありますように。

霊を訓練するために、あなたは以下のことを毎日、特に朝、実行してください。

- 単純に主の御名を呼び求める。
- 霊を活用して、主を享受するために御言葉を祈り読みする。御言葉を用いて祈る。
- あらゆることで霊を活用して、信仰をもって祈る。
- 魂の中には不信仰があるが、霊の中に信仰がある。信仰を活用して、単純に御言葉を信じ、受け入れ、主の約束が自分の身の上でも起こると信じる。

このように霊を訓練することで、あなたの霊は健康で強くなります。あなたの霊は、あなたの三部分、霊、魂、体の中で最も強い部分になりますように。その霊がいつもあなたの学生生活と召会生活を油塗り、祝福してくださいますように。

## 経験:②主の導きとからだの感覚の確認により、大胆に前進する

あらゆる人は、主の導きについて明確になるまで、祈らなければなりません。あらゆる人は、主の臨在の中へともたらされて、彼と接触しなければなりません。その霊とからだは、私たちが均衡の中に保ちます。私たちは、主から得た導きが、からだの感覚に一致するかどうかを確かめる必要があります。

もし私たちが祈らず、他の人と交わらないなら、主を侮辱し、彼の地位を強奪します。さらに、もし私たちが祈らず、交わらないで、ある場所に移住するなら、テスト、患難、迫害がやって来たときに、揺り動かされるでしょう。もし私たちが祈り、交わるなら、主をからだのかしらとして尊び、また私たちが導いているのは主であるという確信を持つようになります。そうして、私たちはある場所に移住した後、主が私たちがそこに遣わしたという確信を持ち、外側の状況がどうであっても、決して私たちの行動を後悔することはないでしょう。私たちは、そこにいるのが主のみこころであり、また主の導きであると強く確信しており、そこにおいて死ぬ覚悟ができています。私たちはそのような確信を持つだけではなく、増強されて主の権威が与えられます。

### 在職青年編:

あなたはビジネス・パーソンとして、さまざまな環境上の激変とそれに伴う選択に直面します。例えば、トランプ大統領は、米国国内の雇用の推進を優先するように企業に強く求めています。このことは米国の企業だけでなく、米国でビジネスを展開するヨーロッパや日本などのすべての企業に大きなインパクトを与えています。ある会社は製品をメキシコでローコストで生産し、米国に輸出していますので、この要求に対応するには大きな戦略上の変更が強いられます。この変化に対応できなければ、その企業の経営状態は悪化するでしょう。これは企業を取り巻く環境上の変化です。それだけでなく、社内では昇進に伴う厳しい競争があり、競争に負けると担当の変更などを強いられます。

このような複雑な状況や変化の中で、あなたは部署異動や転職などの選択に迫られることを経験するかもしれません。このような時、あなたはまず自分の献身を更新し、霊を活用して主に祈るべきです。主とよくよく交わり、霊の感覚を得てください。その後、あなたを導いている兄弟姉妹、及びあなたの霊的パートナーとその感覚について交わり、彼らにあなたのために祈っていただくように求めてください。からだの導きや調整を受けることで重要なことは、あなたの意見に賛同してくれそうな人を探したり、十分に経験のない人に相談してはいけません。それはからだの感覚ではなく、あなたの天然の感覚にしたがった行動であるからです。あなたが真剣に主の道を歩みたいのなら、あなたは誰と交わるべきかが分かるはずです。

このようにして、祈りによるその霊の感覚と、交わりによるからだの感覚によって、あなたは均衡がとられ、正確に主の導きに従って、正しい所に、正しい時期に移動する、あるいは現在の場所に留まることができます。主の導きにおいて、あなたは方向性が正しいだけでなく、時期も正しくなければなりません。そうでなければ、あなたは失敗するでしょう。しかし、主があなたを導き、あなたが主と共に動くあるいは留まるのであれば、恐れたり、あわてふためいたりすることはありません。

申命記 31:6 強くあれ、大胆であれ、彼らを恐れてはならない、おののいてはならない。エホバ、あなたの神があなたと共に行かれるからである。彼はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。イザヤ 28:16 それゆえ、主エホバはこう言われる、「見よ、私はシオンに一つの石を礎として据える。これは試みられた石、固く据えられた礎としての、尊い隅の石である。信じる者はあわてることがない。」

## ヨハネ 6章のマイルストーン: 飢えている人の必要一命が養う By 神大 BSG OB/OG

6:22 その翌日、海の向こう岸に立っていた群衆は、そこに小舟が一そうだけでほかにはないこと、また、イエスは弟子たちと一緒にその舟に乗れないで弟子たちだけが出て行ったことを見た。24 そこで群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないのを見ると、小舟に乗り、カペナウムへ行って、イエスを捜し求めた。25 彼らは海の向こう岸で彼を見つけると、「ラビ、いつこちらに来られたのですか？」と言った。26 イエスは彼らに答えて言われた、「まことに、まことに、私はあなたがたに言う。あなたがたが私を捜し求めるのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからである。27 朽ちる食物のためにではなく、永遠の命に至る永存する食物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与えるものである。それは彼に、父なる神が証印を押されたからである」。28 彼らは彼に言った、「私たちは神のわざを行うために、何をすべきでしょうか？」29 イエスは答えて言われた、「神が遣わされた者の中へと信じること、これが神のわざである」。

①**満足のない人間生活**: 海辺で主を求める群衆がいました。聖書では海は悪鬼が住む所であり、サタンによって腐敗させられた世を象徴しています。海辺は墮落した人が住む所を示します。墮落した人が住む所と、悪鬼の住む所は互いに隣り合っています。このゆえに多くの人々は罪深い生活を送っており、満足がなく、供給がありません。

多くの人は自分が罪の中で生活しているという感覚はないのですが、満足がないことに関しては明らかな感覚があります。人は満足がなく、何かに飢えています。

例えば、高校生は受験生活には満足がないが、希望する大学に合格すると満足があるキャンパス・ライフを送ることができると考えます。ところが大学生になっても飢えている感覚、不満足な感覚はなくなりません。満足がないので多くの大学生は友人と飲みに行って楽しい時を過ごしたいと考えます。ところが楽しいはずの飲み会は、人に真の満足を与えないだけでなく、飢える感覚を増大させます。同時に酒に酔うことは、多くの放蕩や罪深い淫行などに人をもたらししてしまいます。最近の報道によると多くの有名大学の学生や医学部の学生が酒に酔って淫行を犯したので訴えられ、大学を追いやられて人生を台無しにしたことが報じられています。これは墮落した人が悪鬼の住む海の近くの海辺に住んでおり、いとも容易に罪深い行為に陥ってしまうことを示しています。

エペソ 5:18 酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ霊の中で満たされ、

大学や大学院を卒業して、良い仕事を得ても、仕事は人に真の満足を与えることはできません。良い収入を得ても、人の内側の不満足はますます増し加わります。人は飢えており満足がないのですが、人は自分が何を必要としているか分かりません。

②**主は命のパンであり、人に真の満足を与える**: その日、主は彼らを導き、主だけが彼らの必要を供給し、満足を与えることができることを知らせました。ヨハネ 6章は続けて言います。

6:35 イエスは彼らに言われた、「私が命のパンである。私に来る者は決して飢えることがなく、私の中へと信じる者はいつまでも決して渴くことはない。

47 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。信じる者は永遠の命を持つ。48 私は命のパンである。49 あなたがたの父祖は、荒野でマナを食べたが死んだ。50 しかしこれは、天から下ってくるパンであって、これを食べる者が、だれも死なないためである。

主イエスの命は、豊かで、永遠で、満ちあふれています。この永遠の命だけが、人間生活の一切の必要を満たすことができます。主イエスはあなたに言われます、「私に来る者は決して飢えることはない」。飢えることがないとは、何の不足も、むなしさもないということです。

③**人の天然の観念 対 神の観念**: 人は主の言葉を聞くと、神のために何か行わなければならないと考えます。しかし神の観念は、人が神のために何かを行うことではなく、命のパンである主を食べ、享受することです。あなたはヨハネによる福音書第6章を読んだ後、神のために何かをしようとしてはいけません。御言葉に従って、単純に主の下に進み出てください。主は命のパンですので、あなたは主を食べる必要があります。命のパンである主を食べる秘訣は主の御言葉を食べることです。続けてヨハネ第6章を読んでください。

6:57 生ける父が私を遣わされ、私が父のゆえに生きているように、私を食べる者も、私のゆえに生きる。60 そこで、多くの弟子たちは、これを聞いて言った、「これはひどい言だ。だれがこれを聞いていられようか？」63 (イエスは言われた、) 命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。私があなたがたに語った言葉は霊であり、命である。

主を食べると言うとき、多くの人は主の肉を食べるのかと考えてつまずきました。しかし、ここでの食べることは、肉を食べることではなく、主の言葉を食べることを言っています。

主イエスは、神が肉体を取られた方であり、人の罪の身代わりに十字架で死なれた後、死から復活し、命を与える霊となりました。そして、この命を与える霊は、主があなたに語りかける言葉の中に具体化されています。あなたが聖書を読む時、祈りの霊をもって主に来て読むなら、主はあなたに語りかけることができます。この主の語りかけはあなたに命を与えることができます。

④**自分の霊を活用して、聖書の言葉を祈り読みし、命のパンを食べる**: 主が語った言葉は霊であり、命ですので、あなたは思いを用いて理解した後、必ず自分の霊を活用して主の御言葉を祈ってください。主の言葉の本質は霊であり、霊はあなたに命を与えます。マッチの本質が燐であり、マッチの頭、燐をやすりにこすることで、マッチは燃えます。同様に、主の言葉の中の霊に触れるために、あなたは自分の霊を活用して主の言葉をこすする必要があります。思いを活用し御言葉を理解するだけでは、言葉の中の霊に触れ、命にあずかることはできません。人は歩いているとき自然に足を使っています。同様に人が祈るとき、自然に霊を活用しているのです。命のパンを食べるために、必ず自分の霊を活用し、聖書の言葉を用いて祈ってください。

⑤**命のパンを毎日定時に食べる**: 栄養学者は言っています、「あなたはあなたが食べる物によって構成されています」。同様に、あなたが主を食べれば、主で満たされ、主で構成され、主のゆえに満足を得ることができます。主を食べる者だけが、主のゆえに生きることができるのです。

命のパンを食べることで重要なのは、毎日少しずつ食べることです。

マタイ 4:4 しかし、イエスは答えて言われた、「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての言葉によって生きる』と書かれている」。

人は物質のパンを一日3回毎日食べます。誰も一週間分を食いだめすることはできません。同様に、毎日15分前後の時間を決めて(できれば朝の時間)、その時間が来たら聖書を読み、祈り、祈り読みしてください。そうすれば、聖書の言葉はあなたに命を与え、命はあなたの内側の飢えを満たし、真の満足を与えることができます。あなたのキャンパス・ライフが命によって祝福されますように！

811 1 My heart is hungry, my spirit doth thirst;  
I come to Thee, Lord, to seek Thy supply;  
All that I need is none other but Thee,  
Thou canst my hunger and thirst satisfy.  
(C) Feed me, Lord Jesus, give me to drink,  
Fill all my hunger, quench all my thirst;  
Flood me with joy, be the strength of my life,  
Fill all my hunger, quench all my thirst.

2 Thou art the food and the water of life,  
Thou canst revive me, my spirit upbear;  
I long to eat and to drink here of Thee,  
Thyself enjoy through my reading and prayer.  
6 Now to enjoy Thee I come to Thy Word,  
On Thee to feed till my hunger is o'er.  
Now in my spirit I turn unto Thee,  
Of Thee to drink till I'm thirsty no more.